山梨県北巨摩郡須玉町

御崎前遺跡

MISAKIMAE SITE

町道若神子.大蔵線第二次建設工事に伴う発掘調査報告書

2002

須玉町教育委員会

山梨県北巨摩郡須玉町

御崎前遺跡

MISAKIMAE SITE

町道若神子.大蔵線第二次建設工事に伴う発掘調査報告書

2002

須玉町教育委員会

東から須玉町役場及び若神子城（古城）を望む

西から妙円寺とふれあい館．須玉川と茅ヶ岳山麓を望む

序

本報告書は、町道若神子・大蔵線の第二次開設工事に先立ち、平成13年9月20日から10月9日まで実施されました御崎前遺跡の発掘調査の成果をまとめたものであります。

本遺跡の所在する須玉町は、豊かな気候・風土に恵まれ、これまでも各地で人々の永い歴史の跡が発掘・調査されてきました。本調査によってまた新たに縄文時代や、平安時代から中世・近世にわたる貴重な資料を得ることができました。この報告書が多方面で活用される事を願っております。

最後になりましたが調査にあたってご指導ご協力を賜りました関係機関並びに調査・整理に従事された方々に厚く御礼申し上げます。

平成14年3月

須玉町教育委員会

教育長　藤巻　宣夫

例　　言

1　本書は、仮称町道若神子・大蔵線建設工事事業に伴って発掘調査した、山梨県北巨摩郡須玉町若神子字御崎前地内に所在する御崎前遺跡の調査報告書である。
2　発掘調査は、須玉町教育委員会が主体となり実施した。
3　本文の執筆は、山路恭之助、深沢裕三が行い、DTP編集は、浅川佐知子が行った。
4　本調査の出土品、諸記録は、須玉町教育委員会が保管している。
5　調査組織
調査主体　須玉町教育委員会　教育長　　藤巻宣夫
事務局　　須玉町教育委員会
調査担当　須玉町教育委員会　文化財係　山路恭之助
調査員　　深沢裕三
7　遺物の復元・接合・注記は、市川道夫、市川博子が行い、実測・トレース及び図面作成は岡本美恵子、小尾裕美子、浅川佐知子、岡本文美が行った。
8　発掘調査参加者
浅川英光、角井保之助、深沢照明、深沢直江、伏見徳芳、宮崎夏子、白倉恵美子、小澤久恵、八巻まさ子、石川モト子、笠井いさほ、長田重子、藤原正水、中込艶子、矢田由美、内藤三恵子

凡　　例

1　本書で用いた地図は、国土交通省国土地理院の数値地図200,000（甲府、1/200,000平成9年7月1日発行）及び,数値地図25,000（若神子,1/25,000平成9年10月1日発行）である。
2　縮尺は原則として次の通りである。
遺構･･･住居跡1/50、溝遺構1/50、集石遺構1/100、土坑1/50
遺物･･･土器実測図1/1,1/2、石器実測図1/1,1/3、
3　土器の色調については、『新版標準土色帖　1998年度版』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修）に依拠している。

目　次

巻頭図版
序
例言
目次
第１章　調査に至る経緯と経過 1
第２章　歴史的環境 2
第３章　遺構と遺物 3

挿　図　表　目　次

第１図　遺跡位置図 1
第２図　遺跡と文化財 3
第３図　遺跡立地図 4
第４図　立地詳細図 5
第５図　遺跡全体図 6
第６図　１号住居址 7
第７図　２号住居址 8
第８図　溝遺構１ 10
第９図　溝遺構2,3 11
第10図　竪穴遺構及び集石遺構 12
第11図　土坑１ 13
第12図　土坑２ 13
第13図　土坑３ 13
第14図　１号住居址出土遺物 14
第15図　２号住居址出土遺物 14
第16図　２号住居址出土遺物 15
第17図　竪穴遺構出土遺物 15
第18図　溝遺構出土遺物 16
第19図　遺構外出土遺物 16

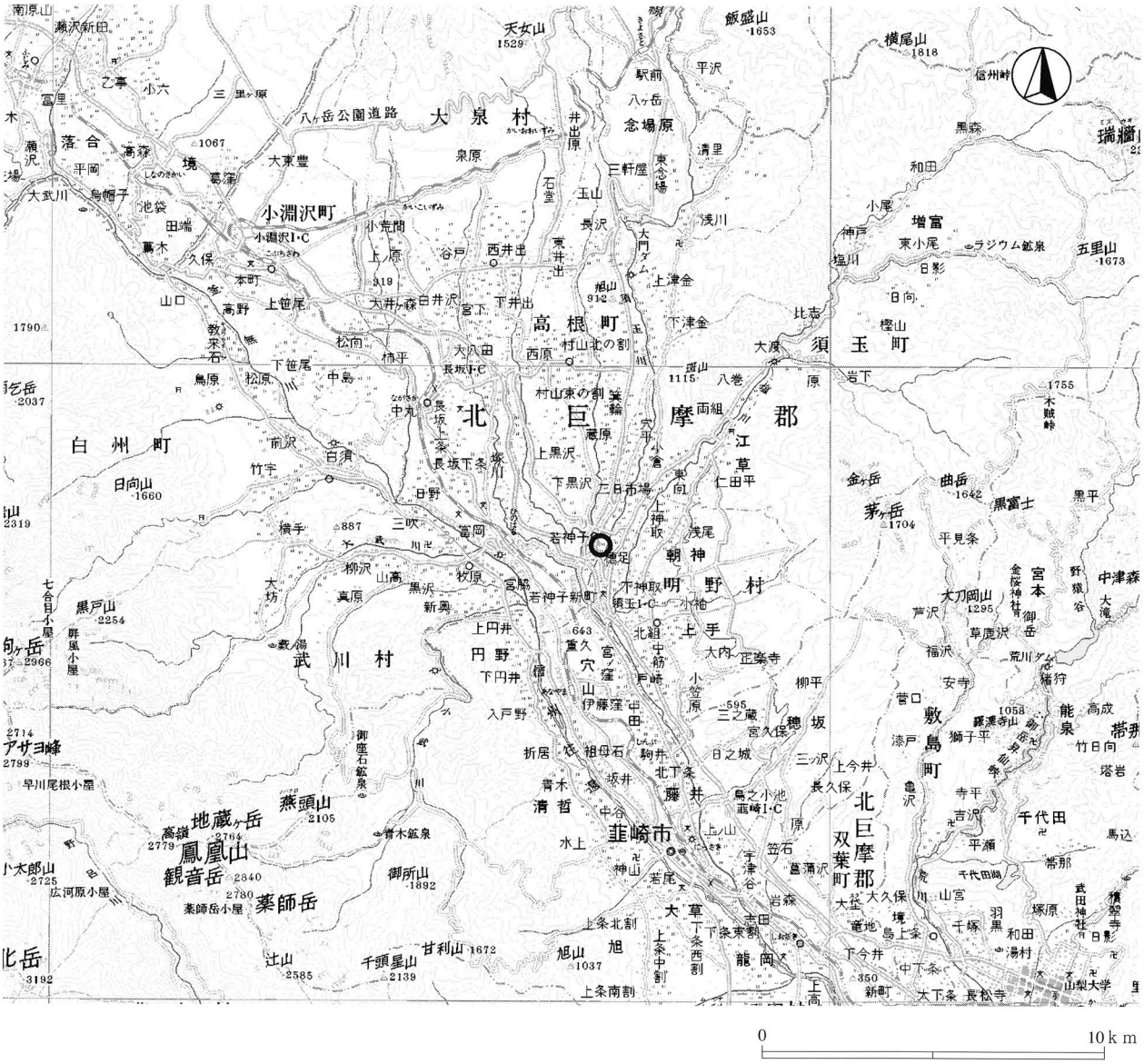
出土遺物観察表 17

図　版　目　次

写真図版１ ..... 発掘調査現場遠景
発掘風景
写真図版２ ..... １号住居址
２号住居址
写真図版３ ..... 溝遺構１
溝遺構2,3
竪穴遺構及び集石遺構
写真図版４ ..... １号住居址出土遺物
２号住居址出土遺物
写真図版５ ..... 竪穴遺構出土遺物
溝遺構出土遺物
遺構外出土遺物

第１章　調査に至る経緯と経過

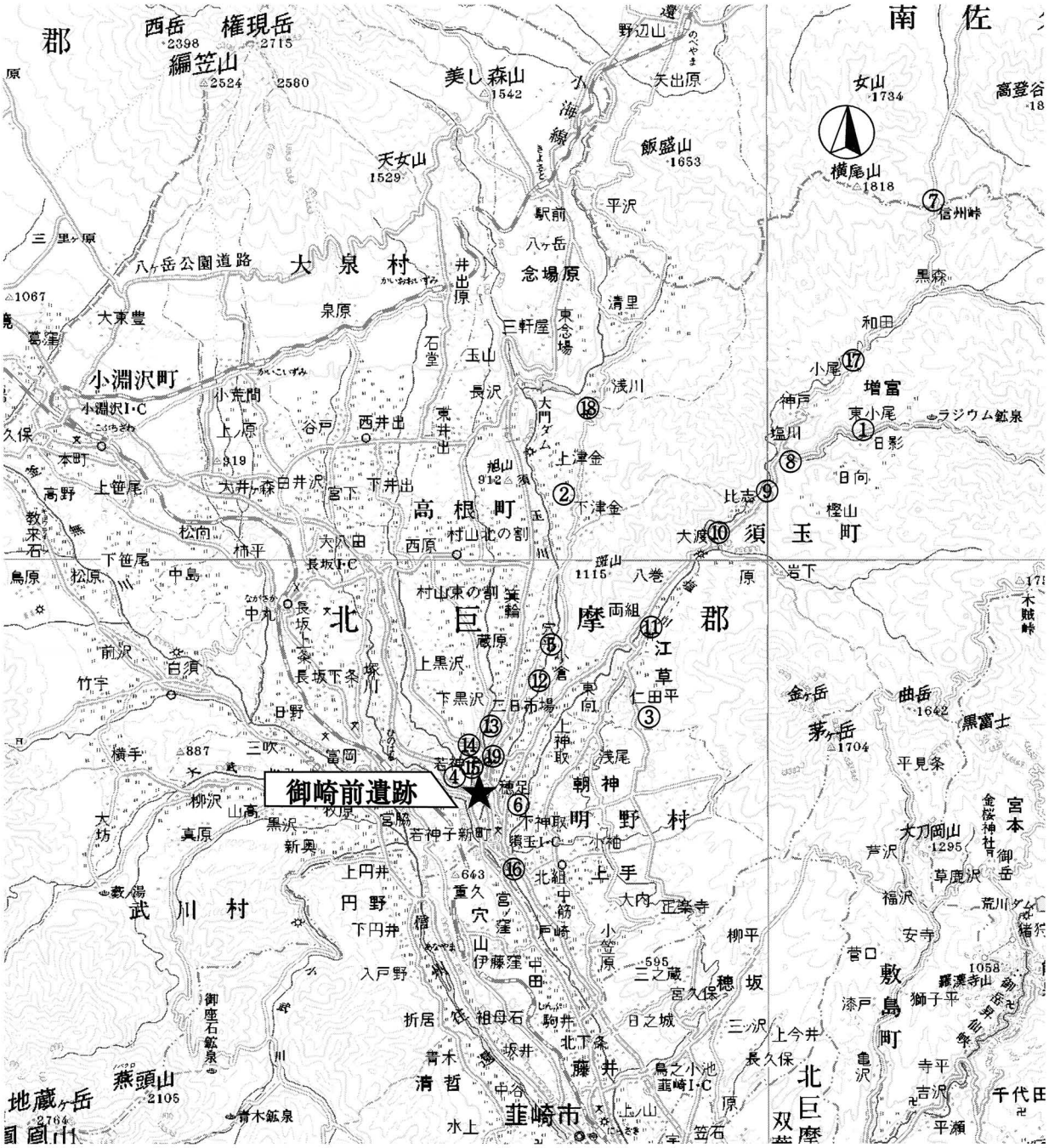
御崎前遺跡は、須玉町の中心部に近く、須玉川右岸に位置し若神子字御崎前に所在する。平成13年７月に須玉川右岸の河川管理用道路から西へ町道若神子東線と中田線を横切り、国道141号線バイパスへ通じる町道若神子大蔵線の第二次開設工事に伴う試掘調査を実施した。平安時代の甲斐型及び在地系土師器片や須恵器片のほかに、中世から近世に亘る陶磁器片や鉄滓、北宋銭などの遺物が確認された。山梨県韮崎土木事務所と須玉町教育委員会及び須玉町建設課と協議した結果、工事計画区画内の630㎡（幅７ｍ×長90ｍ）について発掘調査を実施することになった。発掘調査は，平成13年９月20日から10月９日まで行われ、カマドを持たない竪穴住居址２と竪穴遺構１、溝３条、集石遺構１、土坑、ピット等が発見された。



第１図　遺跡位置図（1/200,000）

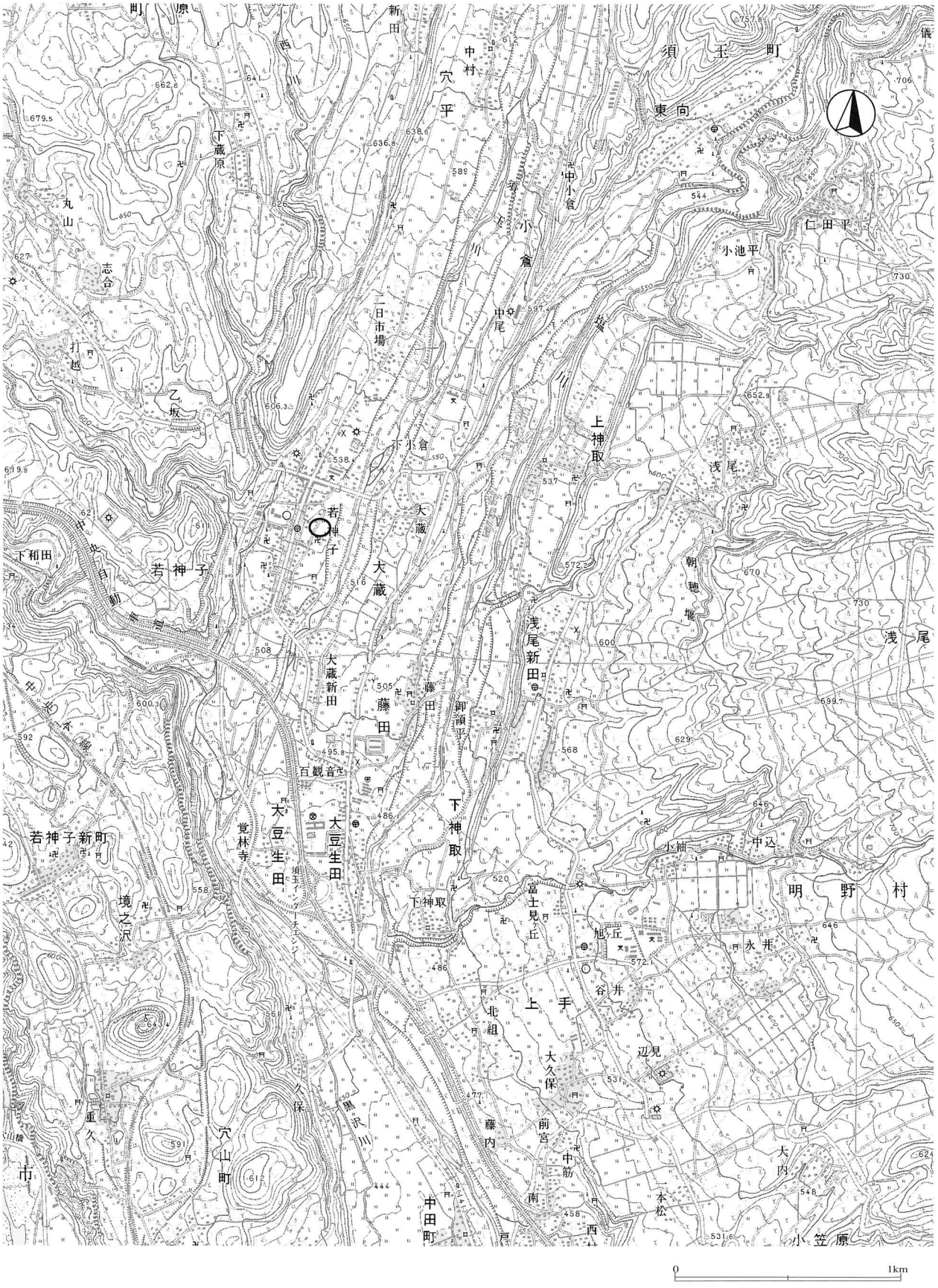
第2章　歴史的環境

須玉町では,平成元年から平成3年まで踏査による分布調査が行われ,町内の6地区（津金、若神子、穂足、多麻、江草、増富）から多数の埋蔵文化財包蔵地を周知するに至った。既に発掘調査が実施された遺跡は,県営及び団体営圃場整備事業の設立や民間企業の事業所施設の設立に伴い行われた調査によって発見されたもので、山地部では、増富地区で縄文時代中期から後期中葉にかけての配石を伴う大柴遺跡（1)、津金地区では、縄文時代中期中葉の顔面把手付深鉢（お産土器）が出土した津金御所前遺跡（2)、江草地区では､茅ヶ岳西麓の尾根上から県下最大規模の縄文時代後期集落址と平安時代の集落址の上ノ原遺跡(3)が発見された。丘陵部では、9世紀後半の平安時代住居址と平窯が検出された大小久保遺跡（4)、若神子地区から平野部では穴平地区の縄文時代中期末の住居址と平安時代の集落址の飯米遺跡（5)、穂足地区からは古墳時代後期と平安時代の集落址の腰巻.腰巻北遺跡（6）などがある。町内を南流する河川の一つ、塩川流域の城山と呼ばれる山頂や峠の尾根上、関門或いは砦などに戦国時代の烽火台が設けられた。国境の信州峠（7）を始めとして,塩川源流の釜瀬川と本谷川の合流地点の南に前の山烽火台（8)、比志の集落の中央に聳える城山に比志の烽火台（9)、江草の大渡と集落と比志との中間にある鳥居峠の西の尾根上に大渡の烽火台（10）がある。中世の城館址では、大渡の烽火台の南,江草集落の東側には獅子吼城（11)、塩川を下り斑山の南麓、中小倉に中尾砦（浦の城）（12）があり、七里岩の尾根上には新羅三郎義光の城址と「甲斐国志」に載る若神子城の北城（13)、古城（14)、南城（15）がある。町の最も南、韮崎市に接する大豆生田字多屋前に、天正壬午の後で、徳川と北条勢が対峙した際,北条方が立て籠もった大豆生田砦（16）がある。その他平安時代中期の延喜式の記載されている小尾の神部神社（17)、石体観世音の海岸寺（18)、若神子下宿の時宗長泉寺（19）の名号板碑等々、建造物、石造物と古代から近世に亘る歴史的資産は枚挙に遑(いとま)がない。



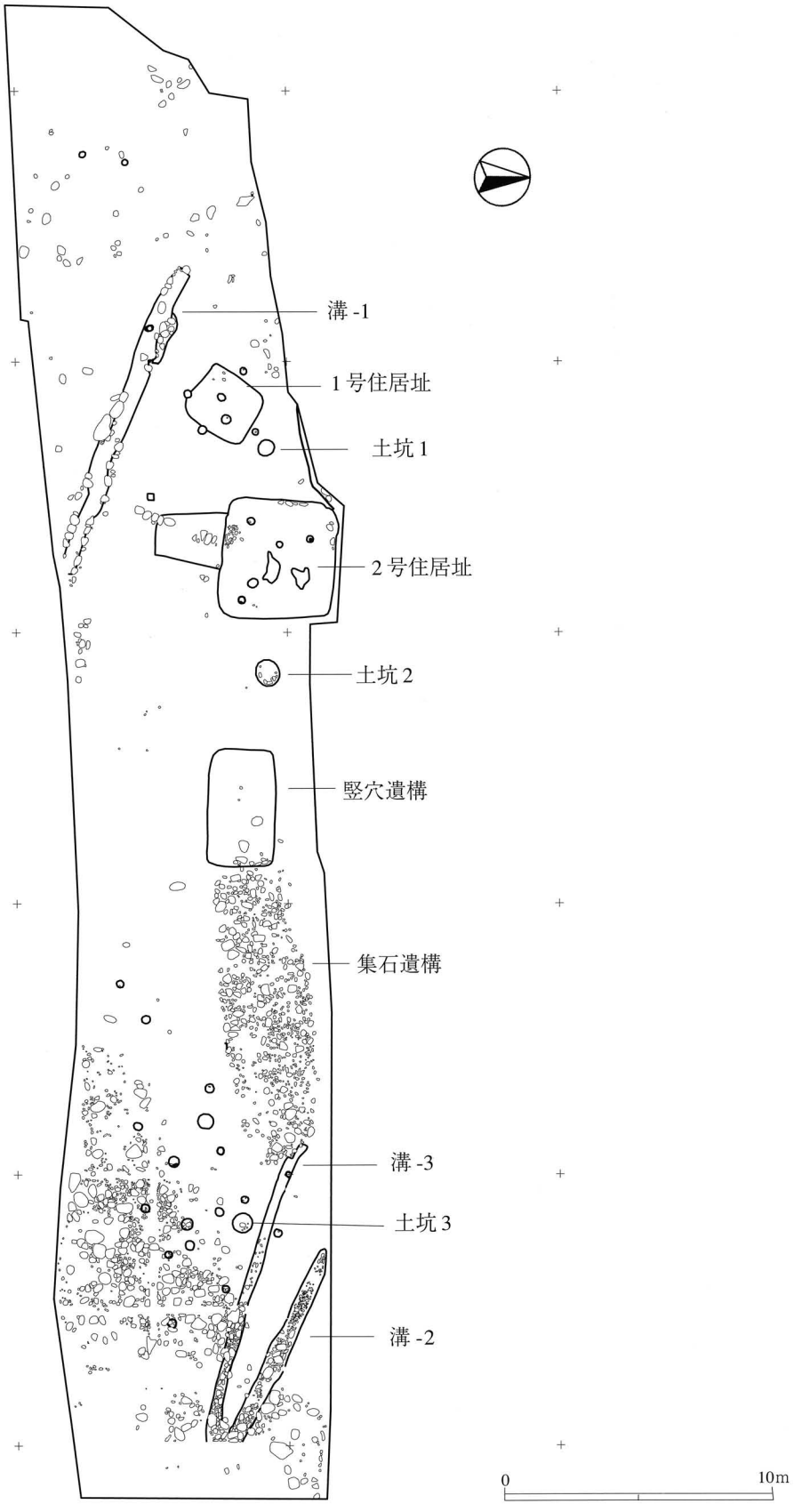
1	大柴遺跡	6	腰巻・腰巻北遺跡	11	獅子吼城	16	大豆生田砦
2	津金御所前遺跡	7	信州峠	12	中尾砦（浦の城）	17	神部神社
3	上ノ原遺跡	8	前の山烽火台	13	若神子城の北城	18	海岸寺
4	大小久保遺跡	9	比志の烽火台	14	若神子城の古城	19	長泉寺
5	飯米遺跡	10	大渡の烽火台	15	若神子城の南城		

第２図　遺跡と文化財（1/200,000）



第３図　町内遺跡分布図（1/25,000）

第４図　立地詳細図（1/2,500）



第 5 図　遺跡全体図（1/250）

第３章　遺構と遺物

（1）１号住居址（第6.14図　図版2）

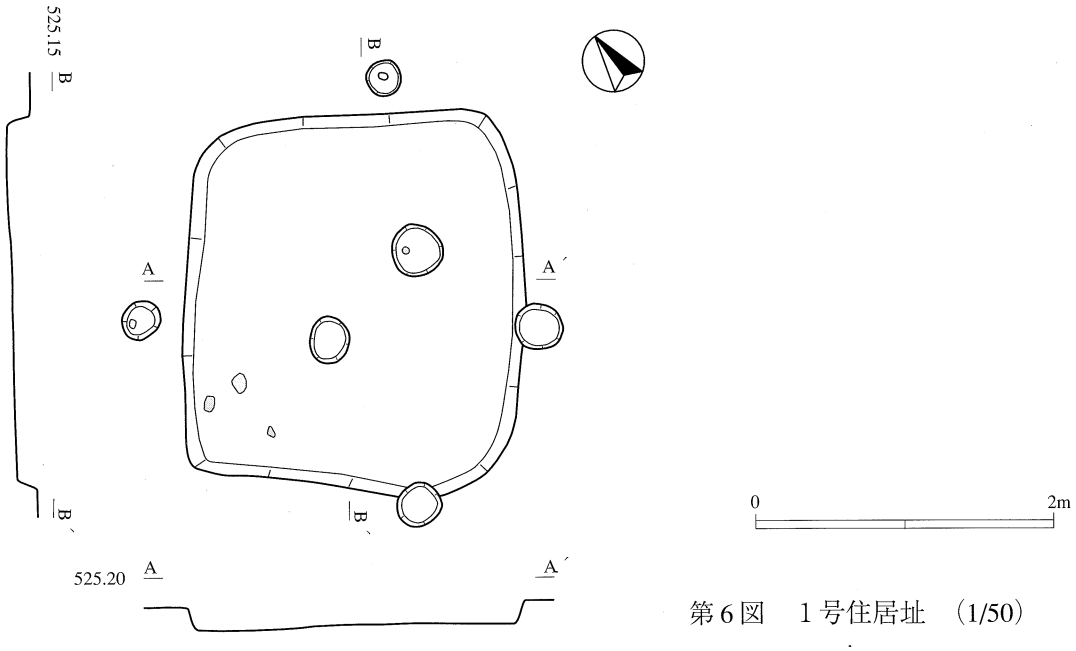
調査区の中央からはほぼ西寄りで発見されたカマドを持たない住居址で、プランは隅丸方形を呈し壁間は25㎝が測られ、ほぼ正方形である。壁は緩やかに立ち上り12㎝～16㎝の掘り込みとなる。床面は平坦であるが貼床は見られず軟弱である。柱穴は竪穴内２ヶ所、23㎝と30㎝の円形を呈し床面からそれぞれ30㎝の深さを測る。各壁際の中央、或いは壁からやや外へ離れてピット4ヶ所か検出され、プランは円形を呈し、20㎝～28㎝の直径で床面からの深さは32㎝～48㎝と異なる。

遺物　遺構内から31点の土器片が出土したが、すべて破損した欠片で接合資料はない。遺物は、平安時代の坏P1、内黒土器片P2と須恵器片21片である。内黒土器の発生Ⅵ期（9世紀第2四半期）頃で消滅がⅧ期（10世紀第4四半期）といわれるところから、P1はこの範疇に入るだろう。

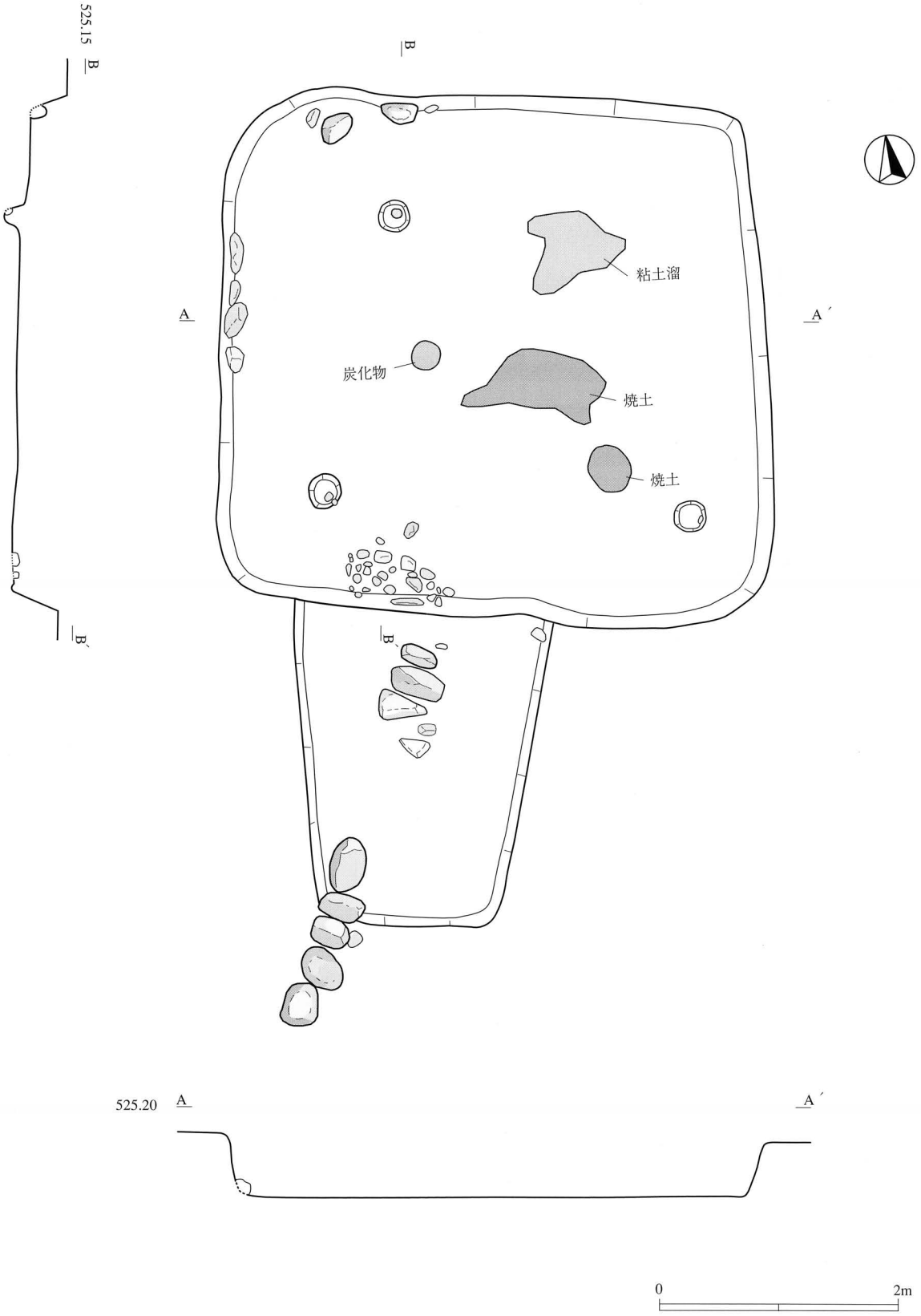
（2）２号住居址（第7.15.16図　図版2）

1号住居址の東側の隣接するプランは隅丸方形を呈し、長軸（東西）4.4m、短軸（南北）3.9mを測り壁は緩やかに立ち上り38㎝から46㎝が測られる。カマドはないが、床の中央で梢に東壁寄りに85cm×50㎝の範囲に焼土が認められた。住居内の北東壁際より60㎝×50㎝の灰色粘土溜りが認められた。柱穴は北東隅を除き各コーナーから3ヶ所検出された。円形のプランを呈し24㎝～25㎝を測り深は20㎝～30㎝南東隅の柱穴内から灰釉陶器片が出土、北西隅の柱穴底に石が認められた。

遺物　沈線文の深鉢片P1は縄文時代後期のもの以外は、殆ど平安時代の遺物が占める。暗文とみこみが認められる在地系土師器底部P2、内黒土器口縁片P3、万と読める墨書土器片P4、高台付灰釉陶器片P5の他に施釉陶器片が覆土上層から若干が出土した。P6は環状鉄器で一部欠落しているが古墳時代後期の金環と思われる。南壁際から安山岩製の磨り面を成さない丸石S1が出土している。総出土数は117点に及ぶ。



第６図　１号住居址　（1/50）



第7図　2号住居址　(1/50)

(3) 竪穴遺構（第10.17図　図版3）

3号住居址から東へ5ｍ距て検出された。プランは長方形で、長軸（東西）4.3ｍ、短軸（南東）2.2ｍが測られ確認面から床面まで15㎝が測られ、床は淡黄褐色土で固くしまっている。カマド、柱穴などの住居に関わる付属施設は認められない。

遺物　P1の在地系内黒土器口縁部片は、推定口径11.8㎝を測る。P2の坏は、推定口径11.4㎝が測られ、覆土上層からは櫛歯状縦沈線文を施した深鉢1片のほか施釉陶器片等も出土している。

(4) 溝状遺構（第8.9.18図　図版3.5）

溝-1　1号住居址から西へ5ｍ離れた地点から南東へ12.8ｍの溝が掘られ，末端は妙円寺境内へ消える。溝幅は、北西で54㎝南東で35㎝を測り，深さは30㎝～40㎝である。壁はやや外反し、ところどころ溝両側に石列が認められる。溝底から砂利、砂は見当たらない。溝が認められた北西隅からコンクリートブロックが多量埋没しており、若神子東線の側溝拡幅工事の際、故意に遺棄したものと思われる。

溝-2．溝-3　調査区東側から2本、平行して検出された。溝-2は長さ7.1ｍ溝幅55㎝～60㎝深さ35cm、溝-3は長さ11ｍ、溝幅25㎝～35cm深さ14㎝～25㎝が測られ、共に北東から南東へ流下した溝である。

遺物　溝-1　黒曜石石鏃のS1、土師器坏口縁片P1は、花弁状暗文があり推定口径11.8㎝を測る。P2は甲斐型小形カメの口縁片で金雲母を多く含む。他に内黒土器口縁等平安時代の遺物が多い中でP3は口縁にスス付着の灯明皿とが出土している。総出土点数44点である。

溝-2　溝-1と同時代の遺物を含め総出土数は12点である。

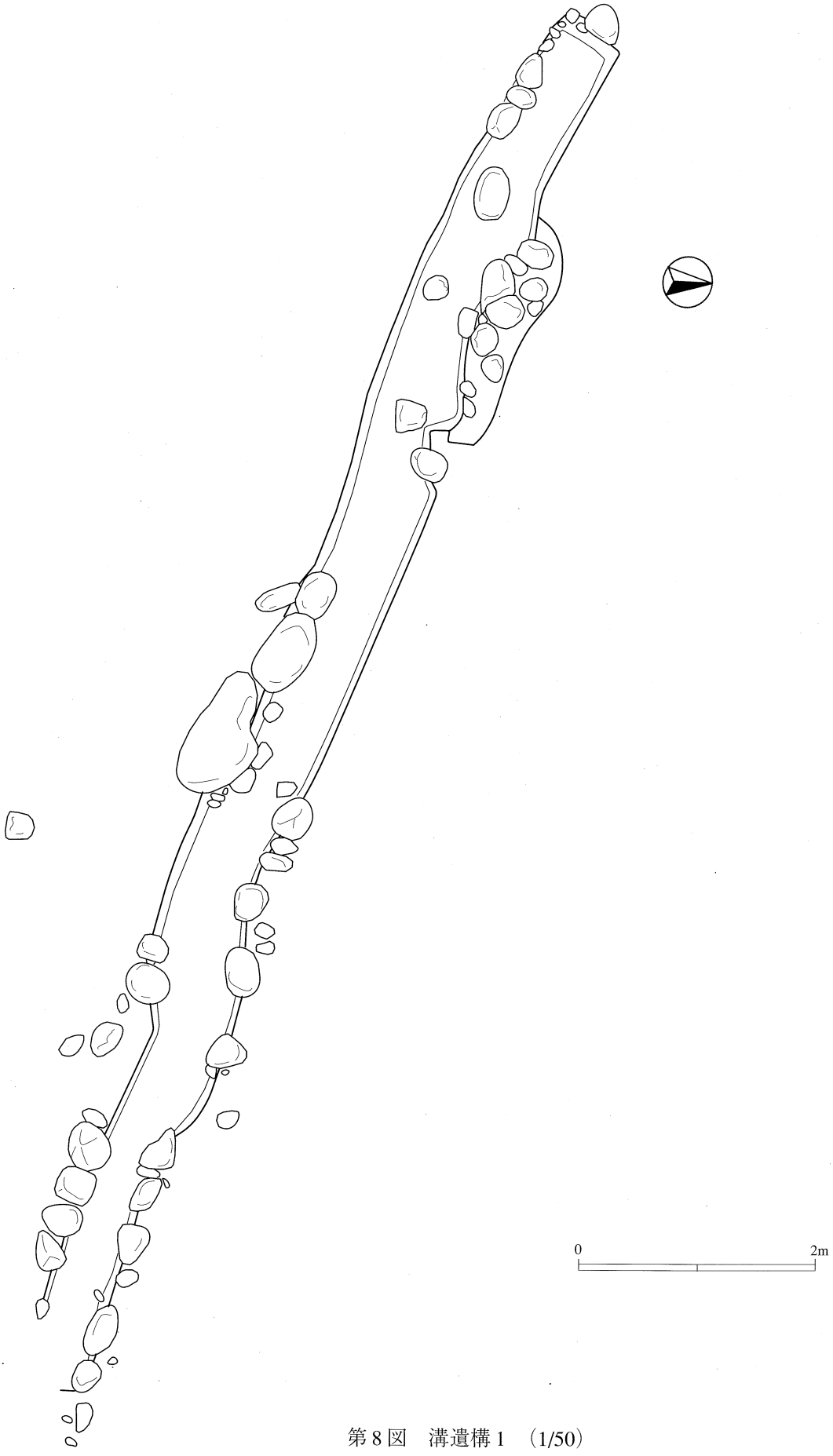
溝-3　土師質土器片の他、陶器碗、カメ片が出土している。7点が出土数である。

(5) 集石遺構　（第10図　図版3）

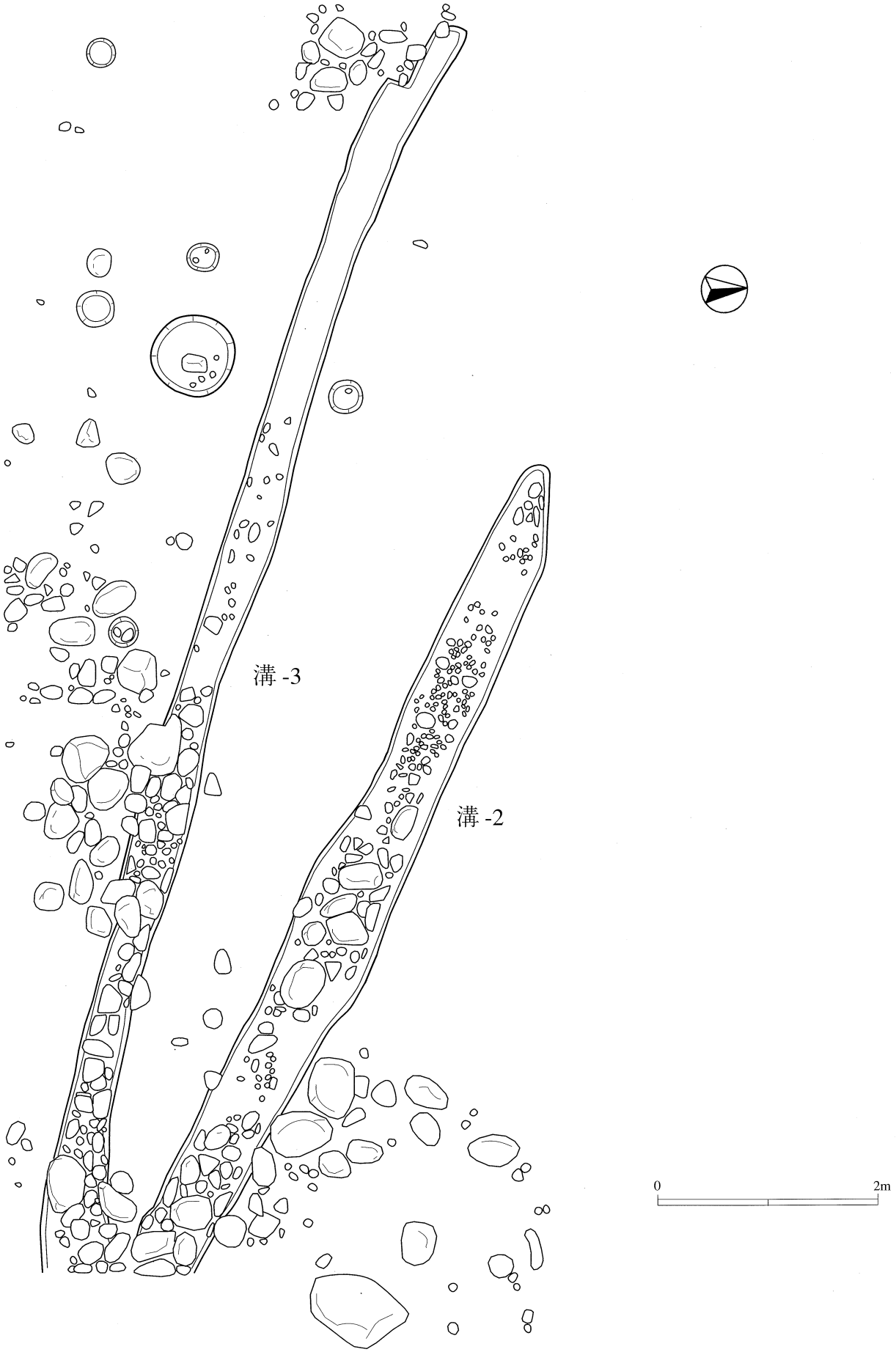
竪穴遺構と並んで検出された遺構で長軸12ｍ（東西）、短軸25㎝（南北）に砕石が敷き詰められ，砕石の間からビニールや鉄骨を埋め込んだブロック魂が露出した。近年工事現場などから運び込まれ埋められたものと思われる。

(6) ピット群

集石遺構と2,3号溝が検出されたグリットの南側で東西約15ｍの範囲から発見されたが、形状と深さがまちまちで掘立柱建物址の柱穴とは異なる。



第8図　溝遺構1　(1/50)



第 9 図　溝遺構 2、3（1/50）

第10図　竪穴遺構及び集石遺構　(1/100)

(7) 土坑（第 11.12.13 図）

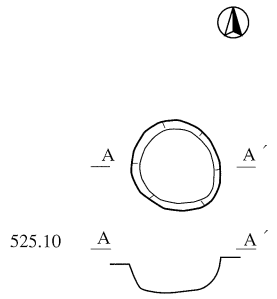
土坑-1 は、1 号住北壁際のピットからやや離れた位置にあって、プランは円形を呈し規模は直径 60 深さは 20 ㎝～ 23 ㎝が測られる。土坑の底部は凹凸である。出土遺物はない。

土坑-2 は、2 号住の東壁脇に占地し、プランは円径を呈し規模は、直径 1m 深さ 30 ㎝で確認面から 5 ㎝～ 6 ㎝の褐色土内に赤色焼土と炭化粒子が多く見られ、その下の灰褐色土内に丸石と角礫が認められた。

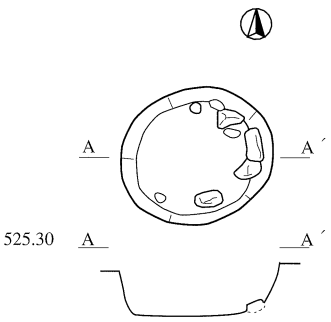
土坑-3 は、溝-3 に沿って認められた。プランは円形で規模は，直径 70 ㎝深さ 25 ㎝が測られる。土坑の中心部は、丸礫を囲んで小石と砂が認められた。

(8) 遺構外出土遺物（第 19 図　図版 5）

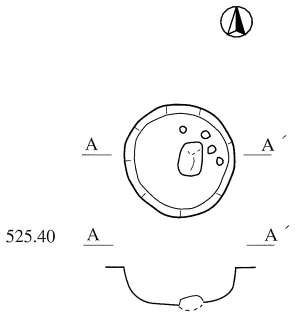
縄文時代の出土遺物は、溝-2、溝-3 の周辺から蛇行貼付文を施し、縦方向に沈線文の深鉢胴部片 P1 と 2 本の隆線による懸垂文の区画内に縦方向の沈線文の深鉢片 P2、溝-3 の近くから円文を施した深鉢片 P3 があり、集石の覆土中から撥型打製石斧が出土し、調査区全体で当時代の遺物は 6 点と少ない。平安時代の出土遺物が大半を占めるものの、接合して復元できる遺物はない。中世から近世にかけては、内耳土器片、染付陶磁器片が数点出土している。



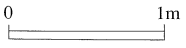
第 11 図　土坑 1（1/50）



第 12 図　土坑 2（1/50）

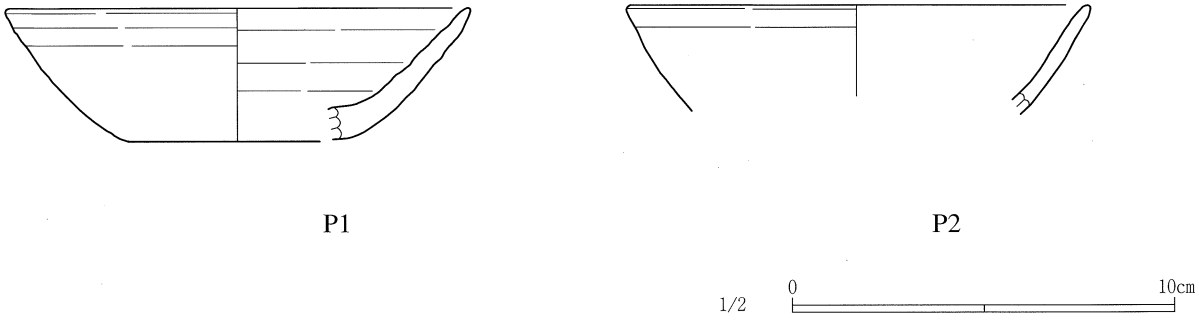


第 13 図　土坑 3（1/50）

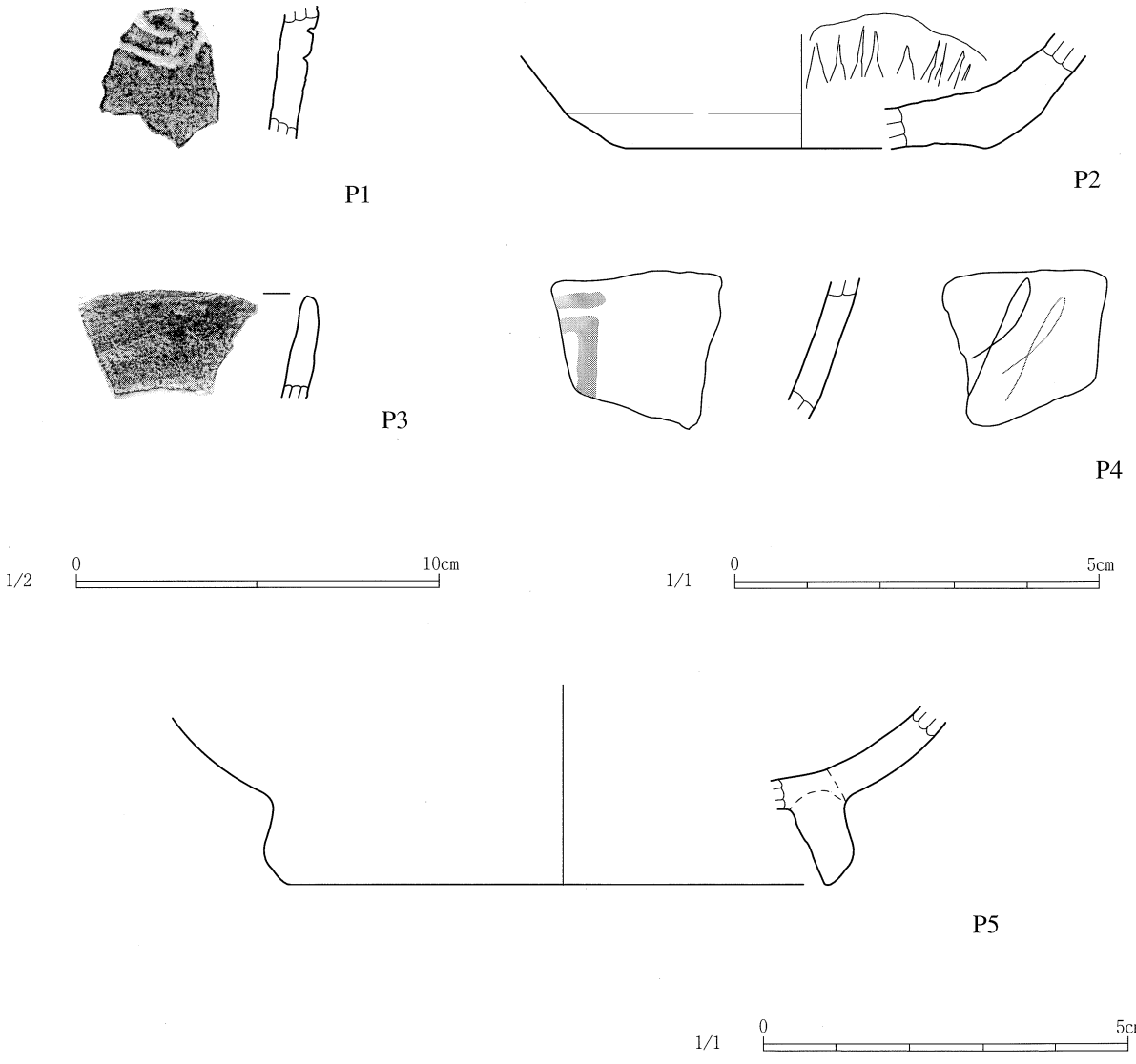


まとめ

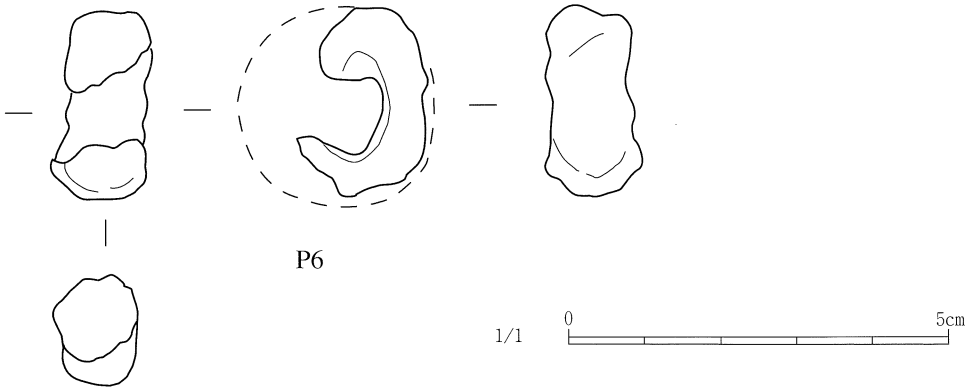
若神子は、平安時代の三官牧の中心にあり、戦国期には信濃攻略の兵站基地であり、兵馬を整え陣立のした場所でもあった。中世城館に関わる字名が今も数多く残る一つに、守護の館或いは有力国人の館に対する呼称である「御所」がある。御崎前遺跡はこの字「御所」に隣接する字内に存在する。発見された遺構から出土した遺物の多くは,平安時代の甲斐型、在地型の坏、皿、須恵器、灰釉陶器等の共膳用具の破片であった。また平安時代末期から中世へかけて、瓦器、内耳土器、灯明皿等の土器も出土し、煮沸、貯蔵など歴史に相俟って出土しているのが本遺跡の特色といえる。

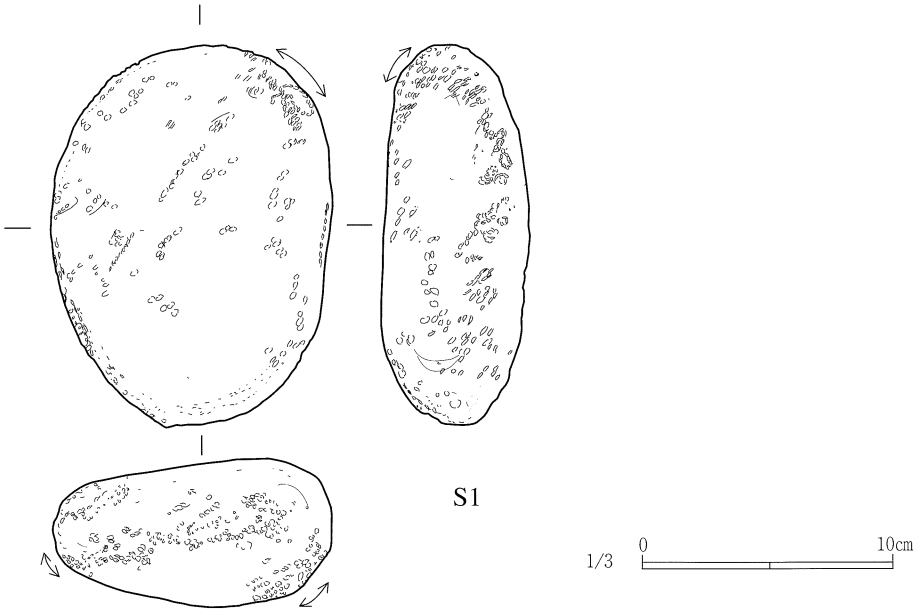


第 14 図　1 号住居址出土遺物

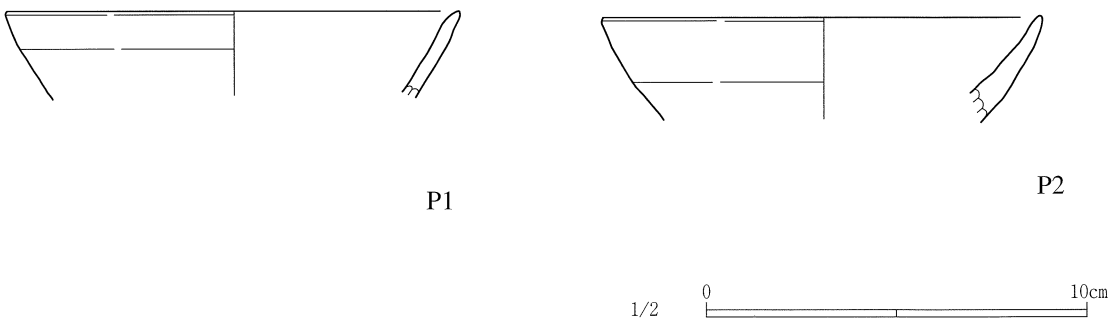


第 15 図　2 号住居址出土遺物

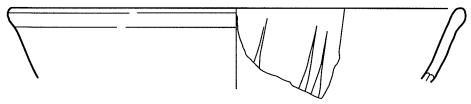




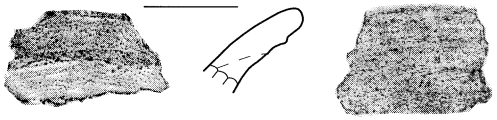
第 16 図　2 号住居址出土遺物



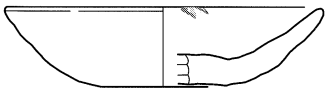
第 17 図　竪穴遺構出土遺物



P1



P2

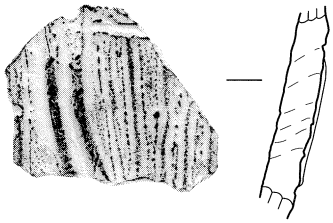


P3

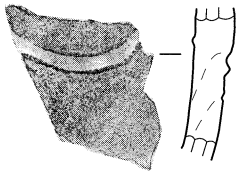
S1

第 18 図　溝遺構出土遺物

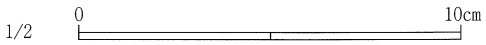
P1



P2



P3



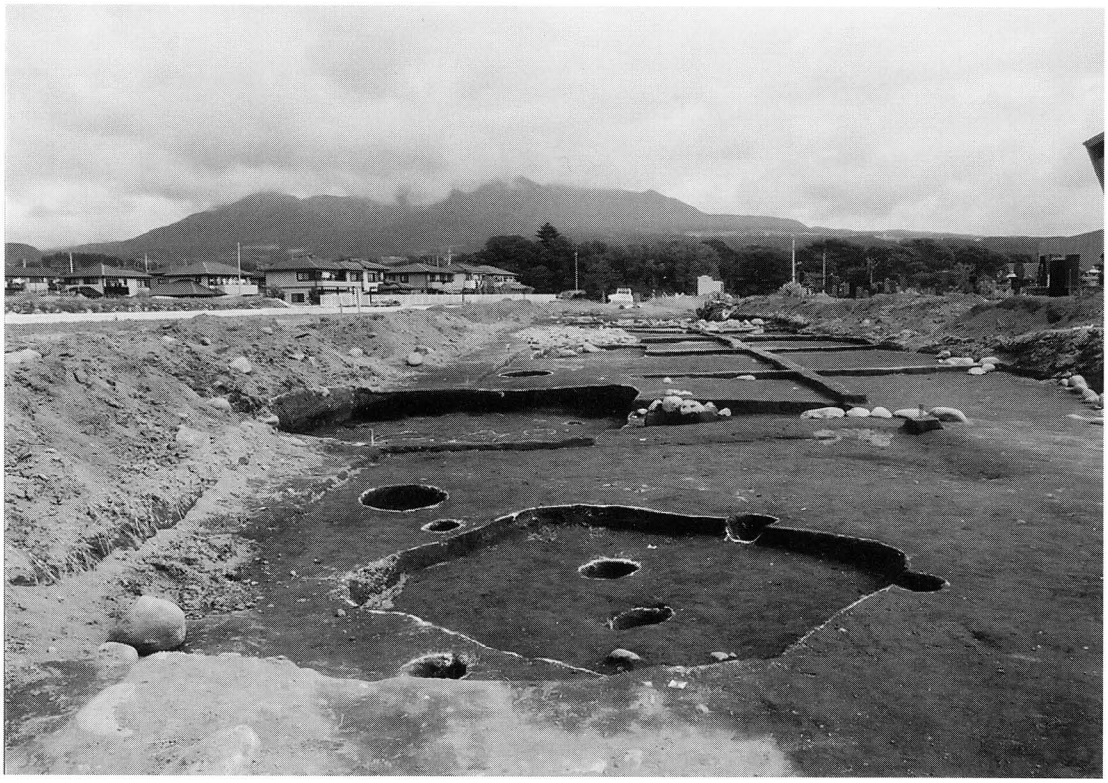
第 19 図　遺構外出土遺物

出土遺物観察表

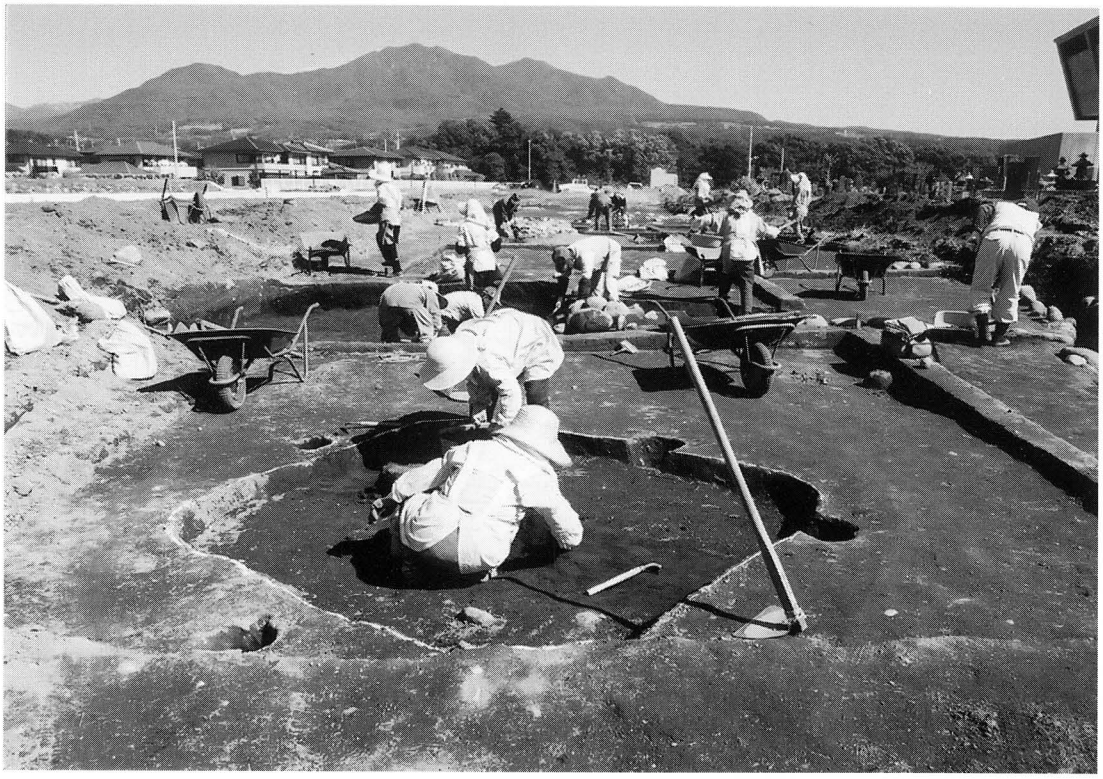
出土地点	番号	挿図番号	種別	器形部位	口径（ｃｍ）	底径（ｃｍ）	器高（ｃｍ）	調　整	胎　土	色　調	備　考
1号住居址	P-1	14	土師器	坏 口縁部	(12.0)	(6.0)	(3.5)	ロクロナデ		赤褐色	甲斐型
	P-2	14	土師器	坏 口縁部	(12.0)	(8.6)	-	(内)ヘラ磨き (外)ヘラ削り		淡黄褐色	内黒
2号住居址	P-1	15	土器	深鉢 胴部	-	(9.6)	-			褐色	
	P-2	15	土師器	坏 底部	(5.2)	-	-			褐色	暗文
	P-3	15	土師器	坏 口縁部	-	-	-			(外)茶褐色	
	P-4	15	土師器	坏 胴部	-	-	-			茶褐色	(内)暗文.内黒 (外)墨書(方)
	P-5	16	陶器	灰釉 口縁部	-	-	-			灰色	高台付
	F-1	16	鉄	環状鉄器	-	-	-				重量4g
竪穴遺構	P-1	16	土師器	坏 口縁部	(11.8)	-	-	(内)ヘラ磨き (外)ヘラ削り		(内)褐色	
	P-2	17	土師器	皿 胴部	(11.4)	-	-		金雲母粒子多く含む	褐色	
溝-1	P-1	18	土師器	坏 胴部	(11.8)	-	-			赤褐色	花状暗文
	P-2	18	土器	甕 胴部	(29.6)	-	-	(内)口縁部横ナデ		茶褐色	甲斐型小型
	P-3	18	土師器	灯明皿 口縁～底部	(8.4)	(3.8)	(2.1)			淡黄褐色	(内)スス付着 (外)糸切り痕
遺構外	P-1	19	土器	深鉢 胴部	-	-	-	ヘラ削り		茶褐色	(外)縦竹管文 蛇行貼付文
	P-2	19	土器	深鉢 胴部	-	-	-			褐色	(外)2本の隆帯にタテ沈線紋施文
	P-3	19	土器	深鉢 胴部	-	-	-		白色粒子	褐色	(底)網代痕

石器				分類	長さ	幅	厚さ	重　さ	石　材		備　考
2号住居址	S-1	16	石器	鼓石	15.0	11.0	5.6	1260g	安山岩		
遺構外	S-1	18	石器	石鏃	1.4	1.4	0.4	1.5g	黒曜石		

写真図版

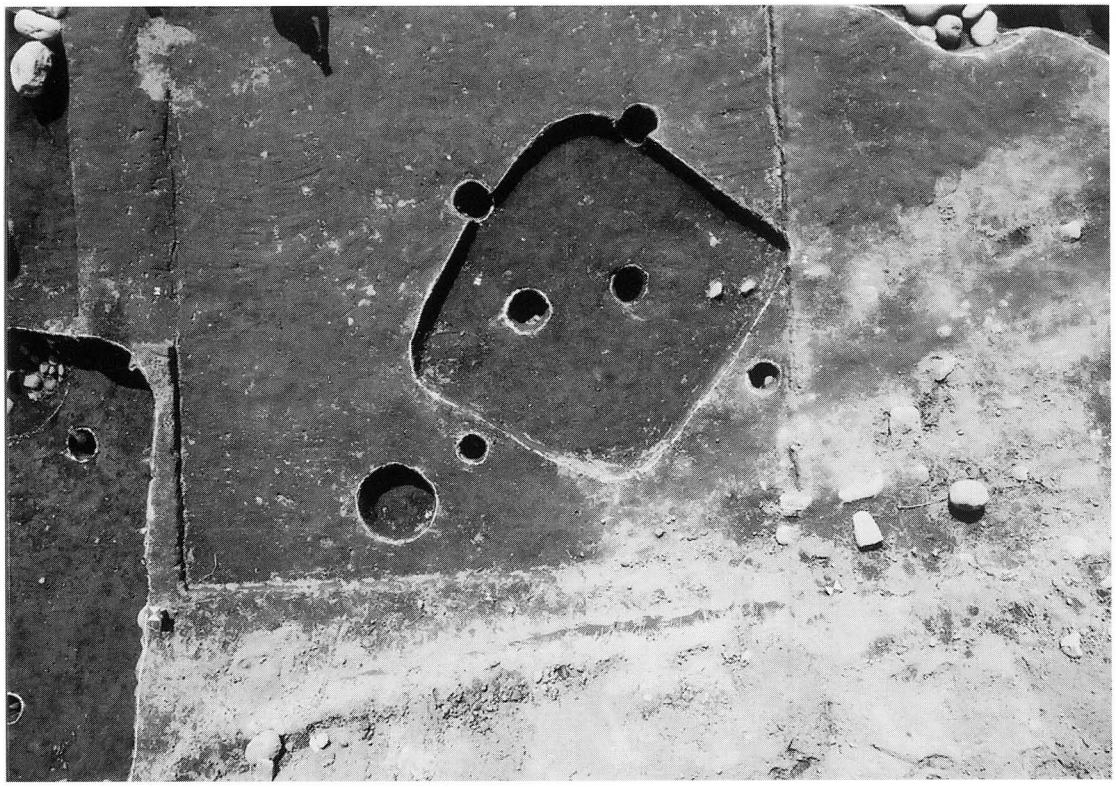


発掘調査現場遠景（西から茅ヶ岳を眺む）



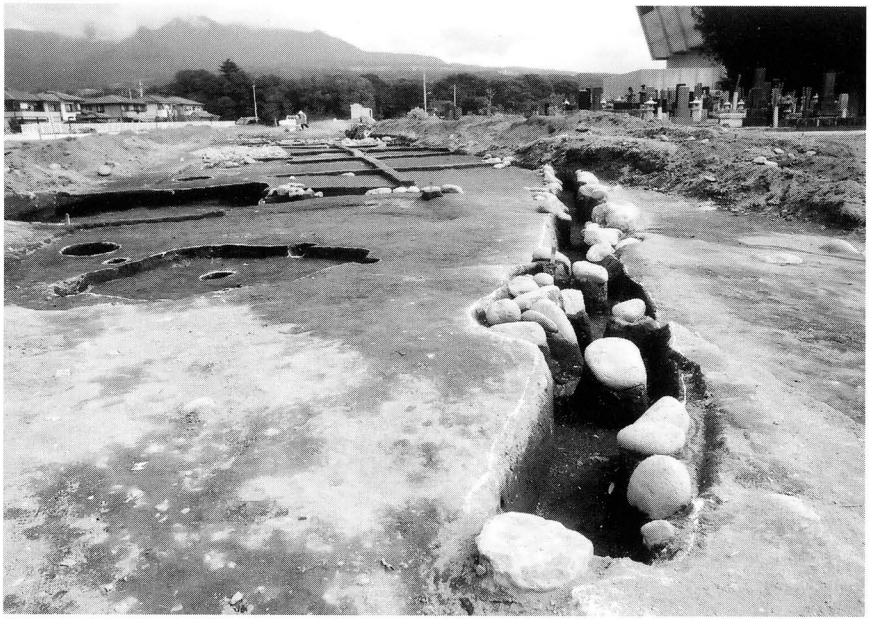
発掘風景 1（西から茅ヶ岳を眺む）

図版 2



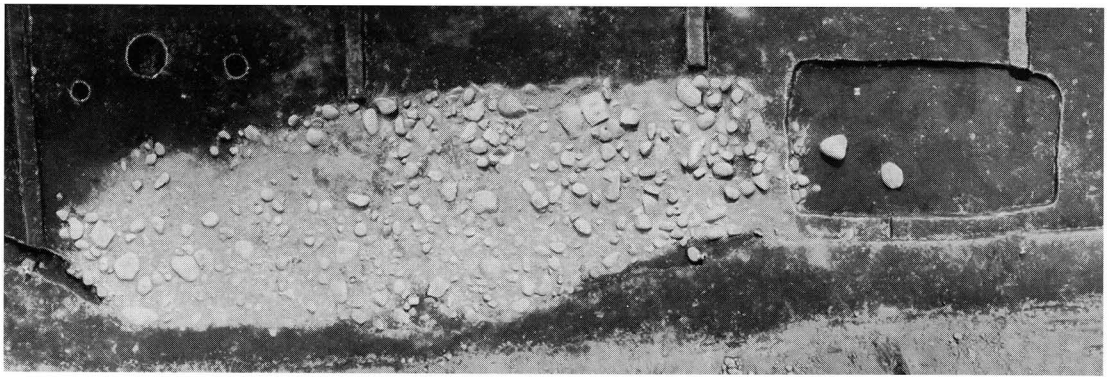
1 号住居址

2 号住居址



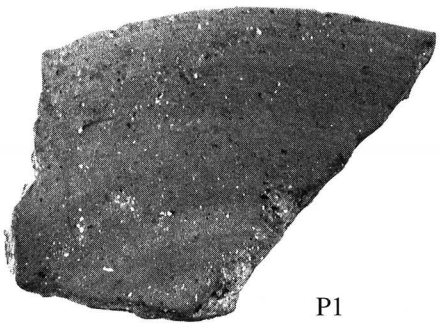
溝遺構 1

溝遺構 1,2



竪穴遺構及び 集石遺構

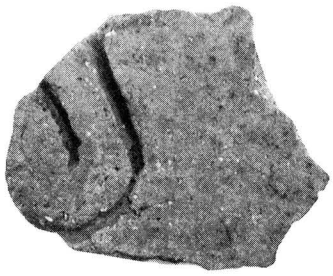
図版 4



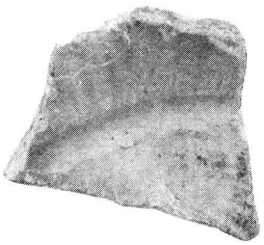
P1

P2

1 号住居址出土遺物

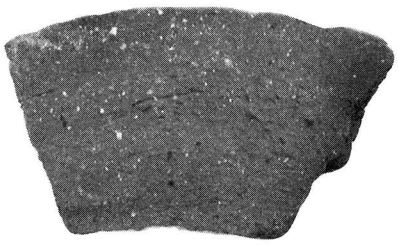


P1

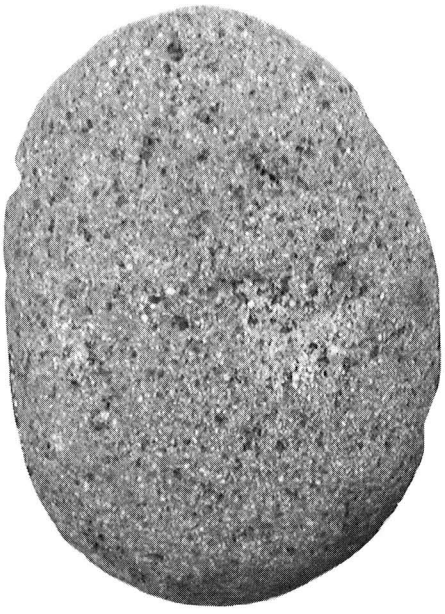


P2

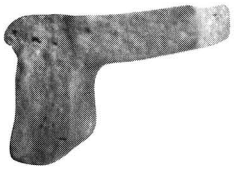
P3



P4



S1

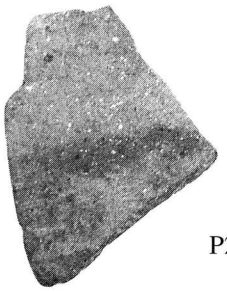


P5

F1

2 号住居址出土遺物

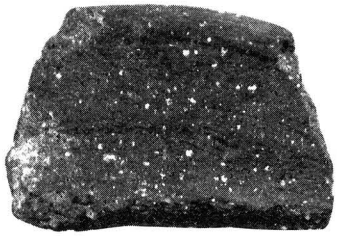
P1



P2

竪穴遺構出土遺物

P1



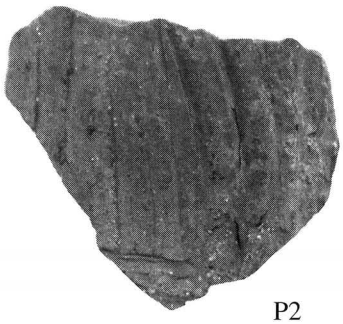
P2

P3

S1

溝遺構出土遺物

P1



P2

P3

遺構外出土遺物

報告書抄録

ふりがな	みさきまえいせき
書名	御崎前遺跡
副題	町道若神子.大蔵線第二次建設工事に伴う発掘本調査
シリーズ名	
編著者名	山路恭之助　深沢裕三
発行者	須玉町教育委員会
編集機関	山梨県須玉町教育委員会
所在地.電話	〒408-0112　山梨県北巨摩郡須玉町若神子1429　TEL0551-20-6111
発行日	平成14年3月29日
所在地	山梨県北巨摩郡須玉町若神子字御所605番地ほか
	25,000分の1地形図　若神子
	位置　東経138°25′ 23.8″　北緯35°47′ 11.4″ 標高525m
	市町村コード　194034
調査原因	町道若神子.大蔵線第二次建設工事に伴う発掘本調査
調査期間	平成13年9月20日～平成13年10月9日
調査機関	須玉町教育委員会
調査面積	630m^2
時期	縄文時代、平安時代、中世.近世
主な遺構	住居址、竪穴遺構、溝、集石遺構
主な遺物	縄文土器、土師器、石器
特記事項	

御崎前遺跡

- 町道若神子 . 大蔵線第二次建設に伴う発掘本調査報告 -

2002 年 3 月 29 日発行

編集　須玉町教育委員会
　　特定非営利活動法人文化資源活用協会
発行　須玉町教育委員会
　　特定非営利活動法人文化資源活用協会
印刷　株式会社 ヨネヤ